

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安心安全な教育環境を保護者や地域の方とともに作り、生徒に確かな学力などの社会生活で役立つ能力を育成する学校をめざす。

- 1 自己実現のために、全教育活動を通して「確かな学力」などの社会的実力を育む (目標のあるキャリア教育)
- 2 人権尊重の精神に基づく安心安全な学校生活のなかで「生きる力」を育む (自他を大切にできる意識と力の育成)
- 3 保護者や地域との充実した連携と協力を図りながら教育活動を行う (地域社会と協力する「開かれた学校づくり」)

2 中期的目標

1 確かな学力などの社会的実力の育成

(1) わかりやすく魅力のある授業づくりをめざす。

- ア 主体的・対話的で深い学びを実現するために、「SN勉強会」を中心として観点別学習状況評価の手法を活用した授業改善に取り組む。
- イ 授業観察・授業アンケートなどに加えて1人1台端末等ICTの有効活用により、具体的な改善点を確認研究し、授業力の向上を図る。
※授業アンケートの教員平均評定の向上 令和7年度には3.4以上をめざす (R2:3.28、R3:3.34、R4:3.35)
※令和7年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「教え方を工夫した授業」の肯定的評価68%以上をめざす。
(R2:56.4%、R3:59.8%、R4:64.9%)

(2) 生徒の多様な進路実現に向けて、組織的な取り組みを行う。

- ア 生徒が目標とする進路を実現できるように、関連情報環境を整備し、基礎学力重視の補習、発展的な進学講習などを充実させる。
- イ 「体育・芸術創造コース」などキャリアを形成する本校の特色ある教育活動を発展充実させて、社会的な実力の育成を行う。
※令和7年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「進路や生き方について学ぶ機会」の肯定的評価85%以上をめざす。
(R2:75.9%、R3:83.6%、R4:83.0%)

2 安心安全な学校生活を通しての生きていく力の育成

(1) 生活指導の充実を図り、生活習慣の確立と規範意識向上、病気予防と環境美化に向けた取り組みを推進し、個々の生徒への支援体制を整備充実させる。

- ア 生活指導を通して、必要なモラルやマナーを身につけることの大切さを意識させることにより、社会生活に必要な力を育成する。
- イ SCを活用した養護教諭・教育相談委員会の取組により、相談機能を活発化して、個々の生徒への支援体制を充実させる。
※令和7年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「命の大切さや社会のルールについての学び」の肯定的評価78%以上をめざす。
(R2:68.2%、R3:71.5%、R4:76.1%)

(2) 人権尊重の意識を育て、特別活動等への主体的参加を促進することで自己肯定感を養う。

- ア 様々な人権問題に関する正しい理解を深めることで人権感覚を養い、自他を尊重する教育を総合的に推進する。
- イ 特別活動や部活動などを通して、楽しく充実した学校生活を送ることで自己肯定感を育てる。
※令和7年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価80%以上をめざす。
(R2:79.8%、R3:79.8%、R4:79.0%)

3 教職員の働き方改革の推進

(1) 教職員の業務内容に関する合理化を行い、可能な範囲での情報共有面での電子化を図ることで、働き方に関する改革を進めていく。

※時間外勤務に関わる産業医との面談が必要な教員数を令和7年度には10名未満になることをめざす。(R2:12名、R3:10名、R4:13名)

4 保護者・地域と協力した学校づくり

(1) PTA活動を充実させ、地域との交流を部活動、学校行事、貢献活動などを通して充実させる。

- ア PTA行事参加、「西高カップ」、地域イベントへの貢献、泉北高等支援学校との授業交流等を発展継続させる。
- (2) 取組みをPTA新聞、校長ブログ、学校説明会、HPなどを通して広報することにより、保護者や地域の本校教育活動への理解を深める。
※令和7年度には保護者対象学校教育自己診断アンケート「教育方針のわかりやすい伝達」の肯定的評価73%以上をめざす
(R2:70.5%、R3:71.2%、R4:68.4%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○「中期的目標1 確かな学力などの社会的実力の育成」について、以下の項目を検証した。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>「授業はわかりやすい」 生徒 58.2% (昨年度比 3.8%減) 保護者 36.6% (昨年度比 0.5%増)</p> <p>「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒 61.8% (昨年度比 3.1%減)</p> <p>教職員の意識については「所属教科では生徒の実態をふまえ、指導方法の工夫・改善を行っている」が肯定的意見 74.4% (昨年度比 16.9%減)、「所属教科では到達度の低い生徒に対する学習指導を工夫し、取り組んでいる」が同 72.1% (昨年度比 14.9%減)、「所属教科では学習意欲の高い生徒に対する学習指導を工夫して行っている」が同 67.4% (昨年度比 2.2%減)であった。また、「学習の評価は、テストの得点だけでな</p>	<p>【第1回学校運営協議会 (令和5年6月23日)】 (学校経営計画の内容及び教育活動に関わって)</p> <p>○R5学校経営計画から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との情報共有について、連絡方法は何か考えているか →さくら連絡網を新たに導入した。保護者との連絡ツールはさくら連絡網、生徒や教職員とはGoogle クラスルームを活用。 ・堺西の取組みの重点項目4つのうち、特に力を入れたいものは何か。 →「保護者・地域と協力した学校づくり」について、生徒が頑張っている部活動やコース生の取組み (例えばアートスタジアム) について広報したい。また、これまで10月に行っていた中学校訪問の時期を前倒して7～8月で実施する予定。 ・働き方改革について、堺西の生徒は元気一杯だが、教員はどうか？疲れていないか？ できれば残業はないほうがいい。 →府教委からの指示もあり、働き方改革に向けての具体的な取組みを現在おこなっているところである。

く、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて総合的に行われている」肯定的意見が生徒 72.8%（昨年度比 1.9%増）保護者 72.1%（昨年度比 0.3%増）であった。以上のことから、昨年度から観点別評価が導入されたが現場の教員がその対応に苦慮していることが伺えるとともに組織的な授業改善への取組みが必要である。

【進路指導等】

「進路についての情報提供も含め、将来の進路や生き方について考える機会がある」 生徒 82.9%（昨年度比 0.1%減）
 「学校は将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」 保護者 78.0%（昨年度比 2.6%増）
 教職員の意識は「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」の項目が 81.4%（昨年度比 5.5%減）、「生徒の望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的なキャリア教育が、行われている」の項目が 65.1%（昨年度比 11.0%減）であった。保護者・生徒とも高い数値を維持しているが、教職員の意識では系統的なキャリア教育の必要性を感じている。

○「中期的目標 2 安心安全な学校生活を通しての生きいく力の育成」については以下の項目を検証した。

【生活指導・人権教育等】

「学校は楽しい」 生徒 84.4%（昨年度比 3.8%増）
 保護者 78.3%（昨年度比 1.2%増）

「校則など、学校生活についての先生の指導には納得できる」 生徒 46.3%（昨年度比 2.1%増）

「あなたは、校則や学校でのマナーを守っている」 生徒 90.5%（昨年度比 1.0%減）

「校則や社会的ルールの指導など、学校の生徒指導の方針に共感できる」 保護者 75.4%（昨年度比 2.3%増）

「本校は、生徒の問題行動がおきたとき、組織的に対応できる体制が整っている」 教職員 81.4%（昨年度比 3.1%増）

「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 生徒 49.8%（昨年度比 0.3%増）

「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 保護者 40.5%（昨年度比 2.0%増）

「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」 教職員 83.7%（昨年度比 14.1%増）

「保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」 生徒 37.6%（前年度比 2.4%増）

「生徒は気軽に先生に相談できる」 保護者 64.6%（昨年度比 1.2%減）

「本校は生徒が学級担任以外の教員とも相談できるよう、教育相談体制が整備されている」 教職員 71.4%（昨年度比 6.9%増）

「学校の部活動は、盛んである」 生徒 90.1%（昨年度比 0.6%減）

「学校は部活を積極的にすすめている」 保護者 81.5%（昨年度比 0.3%増）

「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」 生徒 75.8%（昨年度比 0.3%増）

「学校は、人権を尊重し、生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」 保護者 68.3%（昨年度比 2.2%増）

生活指導（生徒指導、教育相談機能、部活動）や人権教育では生徒・保護者・教職員とも一定の評価をしている。今後も継続して取り組んでいきたい。

○「中期的目標 4 保護者・地域と協力した学校づくり」については以下の項目を検証した。

「学校の PTA 活動や後援会活動は活発である」 保護者 45.1%（昨年度比 0.6%減）

「学校は、保護者や地域の人たちと交流する機会を持っている」 保護者 43.3%（昨年度比 4.4%増）

【第 2 回学校運営協議会（令和 5 年 11 月 24 日）】

○授業見学から（3教科の授業見学を通して）

- ・生徒にどんな力をつけさせたいのかが短い時間での見学ではわからなかった。以前は研究授業を見学する形だったので授業のねらいが理解しやすかった。外部の意見が得られる研究授業のような機会があれば教員力や生徒との関わり合いなどの能力が向上するのではないか。
 →来年度の検討課題としたい。

【第 3 回学校運営協議会（令和 6 年 2 月 20 日）】

○学校教育自己診断結果から

- ・生徒対象学校教育自己診断の「授業がわかりやすい」の項目について学年ごとに差が見られる。1年生が他学年と比べて肯定的評価が低くなっている。学年の先生方の個の問題なのか、高校 1 年目で生徒が戸惑っている結果なのか。
 →分析とともに授業力の向上に向けた取組みを検討したい。

○R 5 学校評価から

- ・「2 中期的目標」の「1 確かな学力などの社会的実力の育成」の「(1) わかりやすく魅力ある授業づくりをめざす」について、肯定的な意見が 7 割となるようにすべき
 →教科ごとの分析や研究授業、SN 勉強会を通して改善を図りたい。

○R 6 学校経営計画から

- ・めざす学校像の『自己実現のために、全教育活動を通して「確かな学力」などの社会的実力を育む』の部分の「社会的実力」という言葉が「生きる力」と解釈できるなら『人権尊重の精神に基づく安心安全な学校生活のなかで「生きる力」を育む』の部分の「生きる力」は「多様性」という言葉が意味合いとしてはしっくりするのではないかと
 →「人権尊重の精神に基づく安心安全な学校生活のなかで「生きる力」を育む」を「人権尊重の精神に基づく安心安全な学校生活のなかで多様性を育む」に変更

教職員の意識は「教職員はPTA主催行事や共催行事に積極的に参加している」の項目が30.2%（昨年度比0.25%減）、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」の項目が53.5%（昨年度比13.9%減）、「積極的に保護者や地域と交流し、奉仕の体験活動やボランティア活動が活発に行われている」の項目が32.6%（昨年度比6.5%減）であった。地域連携については大変良くやっているの周知に問題があると思われる。広報活動に力を入れていきたい。

○学校教育自己診断全般について

- ・部活動、進路指導、学校行事の3点については、生徒、保護者、教職員から一定の評価を得ていると考えられる。
- ・図書館の利用や授業などの学習面においては課題が見られ、生徒全体の傾向として、学習意欲の低下が見受けられる。
- ・生徒は「学習意欲の向上」、教職員は「生徒の学習意欲を向上させる工夫」「個人および組織的な授業改善」が課題である。
- ・教職員においては、校内人事、学校運営、情報共有、課題検討について昨年度より顕著に肯定的評価が下がっているが、これらは働きにくさに直結する課題であり、「適正・能力に応じた人員配置」「教職員間の連携強化」「業務フローの改善」が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力などの社会的実力の育成	(1) 教え方を工夫した授業づくりの推進 ア 本校にふさわしい授業の検討	(1) ア 本校生徒の実態をふまえたうえで、引き続き学習内容がわかりやすく、生徒の自己肯定感の向上に結びつくような授業のあり方を追究し、教職員研修会「SN勉強会」の内容を充実させる。	ア ・年間2回の授業アンケートで平均評定3.36以上 [3.35] ・SN勉強会の全校規模での取組み事業3回以上の開催（研究授業など） [3回]	ア ・2回の授業アンケートの平均評価は3.38であった。(○) ・SN勉強会の開催回数は3回で、6月、11月、2月に実施した。内容はリーディングGIGAハイスクール授業に関する電子黒板付きプロジェクタの活用や先輩教員の経験の共有。(○)
	イ 具体的な授業改善への取組	イ リーディングGIGAハイスクールの指定を受けて、効果的な場面での1人1台端末を中心としたICT機器の活用、「アクティブ・ラーニング」の視点に基づく学習活動などの充実を図る。そのことを通して、工夫ある教科指導に基づく授業づくりに取り組む。	イ ・生徒対象学校教育自己診断「工夫のある授業」の肯定的評価66%以上 [64.9%] ・生徒対象学校教育自己診断「1人1台端末等ICT機器活用」の肯定的評価65%以上 [62.4%]	イ ・生徒対象学校教育自己診断「工夫のある授業」の肯定的評価は61.8%と微減した(△) ・生徒対象学校教育自己診断「1人1台端末等ICT機器活用」の肯定的評価は64.8%で2.4%向上した。目標の数値には至らなかったがリーディングGIGAハイスクールでの取組みの成果が少しずつ表れていると考える(○)
	(2) 進路実現に向けた組織的な取組の充実 ア 進路と生き方について学ぶ機会	(2) ア 難関大学に挑む生徒向けの進学講習、外部会場、外部講師等による進路説明会の実施や就職のための面接指導など、自己の進路と生き方について考えさせながら、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。	(2) ア 生徒対象学校教育自己診断「進路や生き方について学ぶ機会がある」の肯定的評価84%以上 [83.0%]	(2) ア 生徒対象学校教育自己診断「進路や生き方について学ぶ機会がある」の肯定的評価は82.9%で昨年度並みとなった。次年度に向け新たな取組みを考えたい。(△)
イ 特色ある教育による実力を持った社会的人材の育成	イ 大阪万博開催を意識して、キャリア教育の観点をふまえたパフォーマンス成果発表機会(例「アートスタジアム」)を設けて、コース授業における取組みを促進する。	イ 「体育・芸術創造コース」生徒によるパフォーマンス発表機会を年間で2回以上設ける。	イ 「体育・芸術表現創造コース」生徒によるパフォーマンス発表の機会は11月のパンジョホールでの「アートスタジアム」、西高祭体育の部での集団行動、2年生体育コース生のスポーツ概論研究発表など4回実施した。(○)	

府立堺西高等学校

<p>2</p> <p>安心安全な学校生活を通しての生きていく力の育成</p>	<p>(1) 規範意識の向上と支援体制の整備充実</p> <p>ア 規範意識などの社会生活に必要な力の育成</p> <p>イ 個々の支援体制の充実</p> <p>(2) 人権問題の理解と自己肯定感の養成</p> <p>ア 人権問題理解による自尊尊重教育</p> <p>イ 特別活動等を通しての自己肯定感の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・社会生活で必要となるマナーやルールを守るという規範意識を育むために、生徒の納得感に配慮しながら、身だしなみ指導や遅刻指導、交通安全指導などを行う。</p> <p>・コロナ禍が終息しても、引き続き自分の健康のみならず他者の健康も守らねばならないという意識を育み、感染症、その他の病気予防対策などの健康安全行動に取り組ませる。環境美化活動としての清掃指導の充実を行う。</p> <p>イ 「いじめ」事象などが起こった場合に、個々のケースに迅速に対応できる能動的な支援組織の確立を図るために、整備したマニュアルに基づいて、SCやSSWを活用した教育相談体制を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 差別等で苦しむ人々がいるという事実についての認識を養いつつ、自分と他者を大切にする精神を育むために、様々な人権に関する課題を取りあげたLHRなどを実施する。</p> <p>イ 他者とともに課題の達成に至ったよるこびや有用感、自己肯定感を養うために、本校の大きな特色である部活動や行事の盛んさ、活発さをいっそう発展充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・生徒対象学校教育自己診断「自身の校則、マナー遵守」の肯定的評価92%以上 [91.5%]</p> <p>・年間遅刻数 1300 件未満 [1386 件]</p> <p>・病気の予防対策、清掃活動の充実等を促すプリントを相応しいタイミングで 10 回以上配付する。 [12 回]</p> <p>イ 教職員対象学校教育自己診断「学校の教育相談体制の整備」の肯定的評価 80%以上 [78.3%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒対象学校教育自己診断アンケート「命を大切に人権関連」の肯定的評価 78%以上 [76.1%]</p> <p>イ 生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価 80%以上 [79.0%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・生徒対象学校教育自己診断「自身の校則、マナー遵守」の肯定的評価は 90.5%で微減したが依然として高い数値を維持している。(△)</p> <p>・年間遅刻数 1652 件で昨年度より増加した。(△)</p> <p>・「保健だより」として、病気の予防対策や清掃活動への呼びかけなど 12 回にわたりプリントの配付を行った。また、新たに LGBT についても取り上げるなど幅広い内容を扱った。(○)</p> <p>イ 教職員対象学校教育自己診断「学校の教育相談体制の整備」の肯定的評価は 71.4%で 6.9%下がった。いじめに対する校内のマニュアルも整備したのでさらなる取組みを行いたい。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒対象学校教育自己診断アンケート「命を大切に人権関連」の肯定的評価は 75.8%で目標の数値には届かなかった。(△)</p> <p>イ 生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価は 79.0%で昨年度並みとなった。(△)</p>
<p>3</p> <p>教職員の働き方改革の推進</p>	<p>(1) 教育活動とのバランスに配慮しながらの校務の合理化による働き方の改革</p>	<p>(1)</p> <p>本校は多様な教育活動をそれぞれ全面的に推進する全人教育を特色としてきた。そのため一人の教員が担う業務も多岐にわたっている。そこで、業務内容を生徒などの実態に即して教育活動に必要な度合いに分けて、整理したうえで、業務量の検討を通しての精選と簡素化、組織体制の強化を進める。また、可能な範囲で情報共有面における電子化の促進、一斉退庁日の厳格化など、その対策を産業医と連携して図ることにより、働き方を見直し、労働時間の適正化を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>長時間にわたる時間外勤務に関わって、産業医による面談が必要な教職員の数を年間で今年度よりも減少させる (12 名以下)。 [15 名]</p>	<p>(1)</p> <p>産業医による面談が必要な教職員の数は 11 名で昨年度の数値を改善することができた。引き続き様々な取組みを行うことでさらなる改善をめざしたい。(○)</p>

府立堺西高等学校

<p>4 保護者・地域と協力した学校づくり</p>	<p>(1)PTA 活動の充実と地域との交流 ア PTA 参加や地域交流の活性化</p> <p>(2) 広報活動による本校教育に対する理解の促進</p>	<p>(1) ア ・保護者と連携した教育活動の一層の促進を図るために、コロナ禍によりやむをえず設けていた保護者の参加制限等を撤廃して、実行委員会を中心に、PTA の西高祭等行事への積極的参加、PTA 主催社会見学、PTA 広報紙などの活動の充実を行う。</p> <p>・コロナ禍以前以後の実績をふまえて、地域や他校種などと連携した取組みを計画し、イベント等への参加などの要請があれば、積極的に協力して交流を図ることで、本校の教育活動に協力していただく。</p> <p>(2) 機会あるごとの校長ブログの更新、HP 記事による最新の教育活動状況の情報、生徒が活躍する学校説明会の開催、アートスタジアムなどの行事やイベントに関する特色あるポスターちらしの配付などを通して、保護者や地域の方々などに本校に対する理解を深めていただく。</p>	<p>(1) ア ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「PTA 活動の活発さ」の肯定的評価 44%以上 [42.6%]</p> <p>・教職員対象学校教育自己診断アンケート「学校の地域等との連携の積極性」の肯定的評価 40%以上 [38.0%]</p> <p>(2) ・校長ブログの更新 50 回以上の維持 [50 回] ・学校説明会アンケートでの生徒活躍項目の肯定値 50%以上 [一] ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「教育情報提供」の肯定的評価 66%以上 [65.4%]</p>	<p>(1) ア・保護者対象学校教育自己診断アンケート「PTA 活動の活発さ」の肯定的評価は 45.1%であった。今年度、コロナ感染症の 5 類への移行に伴い、PTA 活動もかつてのレベルに戻ってきているが、PTA 主催での社会見学など引き続き中止した取組みもあるので、次年度さらなる活動を行いたい。(○)</p> <p>・教職員対象学校教育自己診断アンケート「学校の地域等との連携の積極性」の肯定的評価は 32.6%であった。地域連携の取組みを行っていない訳ではないので、次年度はより広報に力を入れていきたい。(△)</p> <p>(2) ・校長ブログの更新は 65 回。また公式インスタグラムも立ち上げた。(◎) ・今年度も学校説明会での生徒活躍についてのアンケートは実施できなかったが、生徒会執行部や希望する生徒に、学校生活の様子の説明や施設見学の案内をさせることができた。(○) ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「教育情報提供」の肯定的評価は 68.7%で目標の数値を達成できた。(○)</p>
-------------------------------	--	---	---	--